

第3回本部港中長期計画(仮称)検討委員会 議事概要

日時：令和7年10月27日(月)14:00～16:00

場所：ヒルトン沖縄瀬底リゾート 2階 オーキッド

事務局から各委員意見に対する対応方針や、本計画の方向性、基本理念、中間報告について説明し、委員から意見等の発言があった。その内容は以下のとおりである。

1 第2回委員会時の意見に対する方針

【伊平屋・伊是名航路の本部港への集約について】

(事務局)

第2回委員会で提案した「運天港を利用している伊平屋・伊是名航路を本部地区(旧本港地区)へ集約する案」について、伊平屋村、伊是名村、今帰仁村へ意見照会を行った。

結果として、運航費用増の課題等があることから、本部地区(旧本港地区)での取り扱いは、現段階では計画に含めず、今後、計画策定後、社会情勢の変化等で集約の需要が生じた場合、再度、検討を行うこととした。

2 本部港中長期計画(仮称)

「将来像、基本戦略、主要施策、取り組み、空間利用計画(ゾーニング)(案)」

【渡久地地区(旧本港地区)について】

(委員)

現在、渡久地地区(旧本港地区)の水納航路と那覇航路を、本部地区(旧本港地区)の伊江島フェリーが就航している箇所に集約する案について、本部町の発展は渡久地地区(旧本港地区)の水納航路・那覇航路がもたらす人流・交流にかかっており、水納航路・那覇航路を集約することは、反対である。

また、渡久地地区(旧本港地区)にかつての賑わいを取り戻すことが地元の悲願である。

(委員)

字渡久地の昔ながらの街並みと新しい開発エリアの来訪者の増加、水納航路がもたらす人の流れは不可欠である。

(委員)

港奥部の満名川河口付近に堆積した土砂を浚渫していただきたい。浚渫することで、新たに約40隻の船が係留可能になるスペースが確保でき、地域の活性化に繋がると考えられる。

(事務局)

本部町のまちづくりの計画ともすり合わせながら、再考をしていきたい。

【本部地区(旧本港地区)について】

(委員)

現状では大型クルーズ船が着岸すると、北側の定期貨物の荷役スペースが極めて限定され、安全運航上も厳しい。これ以上の物流の発展は望めず、背後地にある北部地域の農畜産業等の衰退にも繋がりがねない。

既存のクルーズ船バースを南側へ最低200メートル延長することが不可欠である。

(委員)

北部地域の農産物(花卉、野菜等)を県外に出荷するための集出荷施設や選果場、また県外から輸送される生産資材(肥料、飼料等)を保管する倉庫を整備する必要があり、農林部局との連携も考えてほしい。

(委員)

現在のクルーズ船バース建設により、周辺海域の潮流が変化し、堆積物増加やサンゴの減少など水中環境が悪化している。バースを延長する際は、水の流れを確保するなど環境に配慮してほしい。

(委員)

北部地域の農産物は、鮮度保持の観点から航空輸送に依存している品目が多い。船舶輸送を促進するため、鮮度保持機能を持つコンテナ等の設備導入や港湾周辺に農協なども利用できる集選果施設を整備することで、本部港が北部地域の農産物出荷拠点となる可能性がある。

【本部地区(旧塩川地区)について】

(委員)

本部地区(旧本港地区)の物流機能を一部移転・分担させることも視野に入れるべきである。
また、老朽化も進んでいるため対応が必要である。

【渡久地地区(旧エキスポ地区、旧垣内地区)について】

(委員)

海洋博公園南側エリアの再整備計画と連携し、新たに賑わい拠点やレクリエーション機能(マリーナ等)を創出して利活用する必要がある。

以上

【参考】本部港の各地区の位置図

(本部港対象地区：広域図)



(本部港対象地区：拡大図)

